

詩編 103 : 17~22

使徒言行録 1 : 1~11

「約束の聖霊とイエスさまの昇天」

【黙祷】【招詞】 イザヤ書 55 : 6~7

【祈祷】

【聖書】 詩編 103 : 17~22、使徒言行録 1 : 1~11

【説教】

<ルカによる福音書の続編>

わたしたちは、これまで約3年半をかけて、ルカによる福音書の御言葉に耳を傾けてきました。そしてとうとう先週、最後まで読み終えることが出来ました。一つの旅が終わったような充実感と、少し寂しい気持ちも感じています。

しかし、あと二週分だけ、ルカによる福音書の著者であるルカが書き記した「使徒言行録」の御言葉を聞きたいと思っています。

使徒言行録は、ルカによる福音書の続編、第二巻目の書物です。今日の聖書箇所使徒言行録 1 : 1 にはこう書かれています。「テオフィロさま、わたしは先に第一巻を著して、イエスが去り、また教え始めてから、お選びになった使徒たちに聖霊を通して指図を与え、天に上げられた日までのすべてのことについて書き記しました。」

ルカは、福音書のことを「第一巻」と呼んでいます。その、ルカ福音書の一番最後には、イエスさまが天に上げられる場面が語られていました。しかし、そこには必要なことだけを、非常に簡潔に記していたので、ルカはこの「第二巻」である「使徒言行録」の冒頭で、その詳細について述べているのです。

この二週間で、まず、イエスさまが天に上げられるに際して与えられた二つの約束のこと、そして次週には、その約束の一つである、弟子たちに聖霊が降る出来事についての御言葉を聞いて、ルカの文書からの説教のひと段落としたいと思います。

<天におられるイエスさま>

さて、まず3節を見てみましょう。こうあります。「イエスは苦難を受けた後、御自分が生きていることを、数多くの証拠をもって使徒たちに示し、四十日にわたって彼らに現れ、神の国について話された。」

「苦難を受けた」とは、十字架の苦しみと死のことです。しかしそれは、ただ肉体の痛みや、死の苦しみのことだけではありません。もちろんそれも十分に耐え難いことではありませんが、それ以上にイエスさまが味わわれた苦難とは、わたしたちの罪を代わりに担う苦しみであり、それゆえに神の裁きを受ける苦しみであり、神に見捨てられる絶望を経験する苦しみであり、滅びの死を受け入れる苦しみだったのです。

イエスさまは、そのようにしてわたしたちの罪も死も絶望も、すべてをご自分の背に担って下さり、わたしたちには無償で、無条件で、罪の赦しを与えて下さいました。それはひたすら、神さまのわたしたちに対する愛と憐れみによることです。

そして、十字架で死なれたイエスさまを、神さまは死者の中から復活させて下さいました。それは、わたしたちの罪の贖いが成し遂げられた、ということが明らかにされるためであり、またわたしたちを支配する罪と、死の力を、神の力が打ち破って下さった、ということが明らかにされるためでした。

しかし、イエスさまが死者の中から復活し、生きておられるということを、はじめ使徒たちはまったく信じる事が出来ませんでした。それゆえに、復活のイエスさまは使徒たちに現れ、ご自分の復活の栄光の体を示して下さい、御言葉を説き明かし、食卓の交わりを持ち、確かにご自分が生きておられることをお示しになったのです。

さらに今日のところでは、「御自分が生きていることを、数多くの証拠をもって使徒たちに示し、四十日にわたって彼らに現れ、神の国について話された」とあります。つまり、疑い深い使徒たちも、もはや事実を認めざるを得ないような仕方で、イエスさまはご自分が復活したこと、生きておられることを、四十日にもわたって明らかにして下さいました。

そして、復活から四十日が経ち、イエスさまは天にあげられました。そのことによって、使徒たちも、そしてそれ以降のわたしたちも、もはや復活のイエスさまのお姿を、直接この目で見ることが出来なくなったのです。

でも、それは同時に、わたしたちは世界のどこにいても、またどの時代を生きていても、天に、それはつまり、空間も時間も越えたところにおられる、復活して生きておられるイエスさまと、いつでも、どこでも、共にいることが出来るようになった、ということなのです。

<聖霊の約束>

しかし本来、わたしたちにとって、目に見えないことを受け入れ、信じることは、とても困難なことです。それゆえに、イエスさまは今日の所で、4～5 節に語られている、一つ目の約束を与えて下さいました。それは、こんな約束です。「そして、彼らと食事を共にしていたとき、こう命じられた。『エルサレムを離れず、前にわたしから聞いた、父の約束されたものを待ちなさい。ヨハネは水で洗礼を授けたが、あなたがたは間もなく聖霊による洗礼を授けられるからである』」。

父なる神さまが約束して下さいましたものを、天に上げられたイエスさまが送って下さる。それは、「聖霊」を遣わして下さい、という約束です。

イエスさまはそのことを、「聖霊による洗礼を授けられる」と仰っています。その前に「ヨハネは水で洗礼を授けたが」と言われているのは、洗礼者ヨハネが、川の水に浸すことによって行っていた、悔い改めの洗礼のことです。

しかし、天に上げられたイエスさまは、使徒たちを「聖霊」に浸されます。それは、洗礼

を受ける者が、聖霊によって、イエスさまご自身の中に浸される、ということでもあります。そうして、聖霊によってイエスさまに浸された者は、イエスさまと一つに結ばれるのです。それは、イエスさまの十字架の死が、わたしの罪に対する死となる、ということであり、イエスさまの復活の命が、わたしの永遠の命と復活として与えられる、ということです。

そしてわたしたちは、罪人から神の子となり、死ぬ者から生きる者となり、神さまと共に、神さまのものとして、まったく新しく生きる者とされるのです。そうして、天におられるイエスさまと共に生きる者となる。聖霊による洗礼とは、そのような洗礼なのです。

そして、聖霊を受けた使徒たちは、次に、イエスさまのことを証しし、救いの恵みを世界へ宣べ伝える者となっていきます。8節にこうある通りです。「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」

こうして神さまは、イエスさまを信じ、聖霊を受けた者たちによって、救いの恵みを地の果ての、すべての人々にまで知らせ、ご自分の許に立ち帰らせようとしておられるのです。

…ところで、この「使徒言行録」に記されている使徒たちの様子は、ルカによる福音書の彼らの様子とはまったく違っています。それまでは、臆病で、疑い深く、神の御心も何も分かっていない使徒たちでした。

しかし、イエスさまの復活を信じ、イエスさまが天に上げられるのを目撃し、その後に聖霊を受けた使徒たちは、迫害されても、苦難に遭っても、困難に陥っても、死をも恐れず、共に祈り合いながら、勇敢に、大胆に、イエスさまを宣べ伝える者となっているのです。

それは使徒たちが、心の決意を新たにし、過去を反省して、自ら変わったのではありません。使徒たちは、自分の決意などは風が吹けば消えてしまうような、非常に頼りないものであることを知っており、また自分の疑い深さや、弱さや、無力さを、散々味わったのです。

ここで使徒たちがしたことは、決意や反省ではなく、イエスさまに「父の約束されたものを待ちなさい」と命じられた通り、その約束を信じて、祈りながら待つということでした。

そして、使徒たちは約束のとおり聖霊を受け、神さまによって力を与えられ、いつも天におられるイエスさまが共にいて下さる恵みと喜びの中で、神さまの御心に従う者へと、変えられていったのです。

<すべての支配者>

また、イエスさまが天に上げられたことのもう一つの意味は、イエスさまが父なる神さまの右に座し、見えるものも見えないものも、すべてを支配しておられる、ということです。

でも今、わたしたちの世界において、わたしたちは神さまのご支配が本当にあるのか分からない、と感じることがあるのではないのでしょうか。悪の力が支配し、罪の力がわたしたちを打ち負かし、死が最後にすべてを覆ってしまうのではないか。この目には、そのような目に見える現実が、わたしたちを支配しているように思えます。

しかし、わたしたちは、聖霊によって、見えないイエスさまを救い主と信じて仰ぎ、見えない神さまの救いの恵みを見つめる目を与えられているのです。

わたしたちは、聖書の御言葉を通して、イエスさまがこの世に来られて、十字架の苦しみによって、わたしたちの痛みも、苦しみも、悲しみも、悩みも、罪も、そして死の恐れも、絶望も、すべてを引き取り、ご自分のものとして下さったこと。そして復活し、それらすべてに勝利して下さったことを、はっきりと知らされています。

ですから、わたしがこの世の現実の中で、最も苦しみの中にある時、嘆きの中にある時、打ちのめされている時。それは神さまが不在であったり、神さまに見捨てられている時ではなく、まさにその只中で、神の御子であり、救い主であるイエスさまが、わたしの最も近くに共にいて下さり、わたしのあらゆる苦難を、わたしごと担って下さっている。そのことを、見つめさせられる時となるのです。

イエスさまが共にいて下さる。その見えない恵みを見つめることが出来るなら、わたしたちはこの方によって、慰められ、癒され、必ず起き上がることが出来ます。

そしてわたしたちは、この十字架の苦しみを受けられたイエスさまが、復活され、死に打ち勝ち、天に昇り、今やすべてを支配する方であることを知らされているのですから。どのような時にあっても、わたしを支配しているのは、この世の苦しみや、悪や、罪などではなく、天におられる復活のイエスさまであると、信じて良いのです。

<終わりの日の約束>

そして、今日の聖書箇所では、もう一つの大切な約束が示されていました。それは、イエスさまが天に上げられた直後に、天使が現れて告げたことです。11節「ガリラヤの人たち、なぜ天を見上げて立っているのか。あなたがたから離れて天に上げられたイエスは、天に行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになる。」

天に上げられたイエスさまは、終わりの日に、再び来られる。そのような約束が与えられています。終わりの日とは、最後の審判の日であり、救いの完成の日であり、神の国、神のご支配の完成の日です。

やがて来る終わりの日、イエスさまは再び来られ、わたしたちも復活の体を与えられ、この目で復活のイエスさまを仰ぎ見ます。そして、見えない恵みが、イエスさまのご支配が、すべて明らかにされ、すべての者の目に見えるものとなります。

その日には、最後の審判が行われます。わたしたちすべての者の罪もまた、明らかにされます。しかしわたしたちの目の前に立っておられる審判者は、わたしたちの罪をすべて担って下さったイエスさま、そしてすべてを支配しておられるイエスさまに他なりません。

わたしたちは、この方の御前に立ち、この目でイエスさまを仰ぎ、「あなたの罪は、わたしがすべて背負った。あなたの罪は赦された」。この宣言を、この耳で聞くのです。そして、共に主の食卓に、愛する兄弟姉妹たちと共に着く。その日が、わたしたちの救いの完成の日、神の国の完成の日です。

その日までわたしたちは、イエスさまの「聖霊が降ると、あなたがたは力を受け…、地の果てに至るまで、わたしの証人となる」との御言葉に従って、救いの恵みと、確かな希望を証ししていくのです。

神さまの御言葉は、神さまご自身の御力によって、これまでことごとく実現してきました。ですから、イエスさまが再び来られ、すべてを完成させて下さることも、神さまが必ず実現して下さいます。これは、わたしたちにとって、大きな、確かな、希望です。

【お祈り】

天の父なる神さま

今わたしたちは、聖霊を与えられ、この目で直接見ることが出来なくても、天におられるイエスさまを信じ、見上げる者とされ、一つに結ばれ、共に歩む者とされています。

また、イエスさまが再び来られる、確かな約束をいただき、その希望を待ち望む者とされていることを感謝いたします。

どうかその日まで、御言葉に聞きつつ、救いの恵みを見つめつつ、祈りつつ、あなたの望まれる歩みをすることが出来ますよう、聖霊によって導いて下さい。

そして、わたしたちがイエスさまと共にいて下さる恵みを隣人に伝え、一人でも多くの者が、イエスさまと共にある喜びに与り、互いに愛し合い、共に希望を持ってこの地上を歩むことが出来ますように、導いて下さい。

このお祈りをイエスさまの御名によってお祈りいたします。アーメン

【讃美歌】 336 「主の昇天こそ」

【信仰告白】 使徒信条

【献金】

【主の祈り】

【讃美歌】 28 「み栄あれや」

【祝福】 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。アーメン